

第7回 基地周辺地区安全対策協議会 議事録

1 開催日時

平成24年12月19日（水）10：00～11：00

2 開催場所

横須賀市役所3号館5階 正庁

3 議案

米軍の綱紀肅正のための一連の措置について

4 委員名簿

別紙

5 傍聴人の人数

1人

6 議事の要旨

以下のとおり

事務局（基地対策課長）

皆さま、おはようございます。定刻になりましたので、ただ今から第7回基地周辺地区安全対策協議会を開催いたします。私は本協議会の事務局であります横須賀市基地対策課長の中野でございます。よろしくお願いいたします。

本日の協議会の出席者は過半数に達しております。よって、基地周辺地区安全対策協議会設置要綱第4条第2項の規定により、本日の会議は成立していることをご報告申し上げます。

また、委員長である廣川副市長の辞任に伴い、平成24年12月17日付で同要綱第3条第2項により沼田芳明副市長が本協議会の委員長に就任いたしましたので、合わせてご報告申し上げます。

開会にあたり、本協議会の副委員長であります川口様からご挨拶をお願いいたします。

川口副委員長

皆さま、おはようございます。本協議会の副委員長でございます本町町内会会長の川口でございます。本協議会開会のご挨拶をさせていただきます。

本日は、本協議会にお忙しいところ、皆さまお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。本来なら副市長が委員長の席を務めるところでございますが、先ほど事務局から説明がありましたとおり、立て込んでおりまして、本日は私が議事進行をさせていただきますので、皆さまのご了承をお願いいたします。

本日は、米海軍横須賀基地司令官のオーエン司令官においでいただいております。お忙しいところありがとうございます。沖縄の事件を受けて、米軍サイドをもって、外出時間の規制、飲酒時間の規制等が行われており、それについて、マスコミ等でいろいろ報道されていますが、こういう状況の中でオーエン司令官に来ていただきまして、いろいろお話しいただく協議会をもてたということは幸いなことだと思います。これは、長年にわたりまして、米軍基地と横須賀市との人道的な交流に基づいて、このような協議会をもてたと考えております。

これから、司令官にお話しをいただくわけですが、委員の皆さまにおかれましても協議会の議事進行につきまして、最後までご協力いただきますようお願いいたします、私の挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

事務局（基地対策課長）

カメラにつきましては、ここまでとさせていただきます。それでは、今後の進行につきましては、川口副委員長をお願いいたします。

川口副委員長

それでは、早速ですが次第に基づき、議事に移らせていただきます。本日の議題は「米軍の綱紀粛正のための一連の措置について」となっております。これについて、米海軍横須賀基地司令官のオーエン司令官よりご説明をしていただくことになっておりますので、よろしく願いいたします。

オーエン司令官

皆さまもご存じのとおり、沖縄の一連の私ども米軍の不祥事によりまして、私どもに様々な規制等が追加されました。最初に、10月19日に夜間外出禁止令が発令されまして、全米軍人が午後11時から翌朝5時まで外出を一切禁止するという措置が取られました。皆さまにお渡ししている資料の中にもありますように、全米軍人を対象に、これは出張や休暇中の者も含まれますが、米軍人は外出制限時間中、米軍施設内もしくは施設外の場合は個人の住宅、出張または休暇の場合は滞在先の部屋を含む宿舎内にいなければならないという規定になっています。

また、今回、沖縄などで起きた不祥事につきましては、すべて飲酒に起因するものということが、上層部において分かったということで、飲酒規制も新たに11月20日に発令され、午後10時から翌朝8時まで規制するという形で発令されました。

12月に入りまして、在日米軍から新たに、三等兵曹以下の水兵は、必ず二人一組で行動を行わなければならないという規制が発令されました。このペアシステムと呼ばれるものは、必ず二人一組で、片方はもちろん米軍人ですが、もう一人、いわゆる付き添いでいる人間に関しては、必ずしも日米地位協定に基づく米軍人でなくても良いという形になっております。これは、あくまでその場合に限り、民間人であれば、その米軍人が所属する部隊の上長が認めた人間もしくはその上長が特段認めれば、場合によって、このペアシステムを解除できるといった内容の規制になっています。

これらの規制に関してですが、今後、追加されていくのか、緩和されていくのか、これらに関しては、あくまで、私どもの上層部が今後判断していくものと思われま。現状としましては、私どもにまだ、緩和するもしくはなくすといったものは入ってきません。また、追加するといったことについても入ってきません。今後、再度、不祥事が万が一起きた場合は、これらに対して追加があるかもしれないということもあります。ですので、現時点ではまだ、我々の方では、これらが緩和されるかどうか分からない状況にあります。

私どもは、これからも引き続き、地域の良き隣人としてあるために最大限の努力をさせていただきますと思います。

私どもの現状における取組みといたしまして、現状においても月1回、地域の環境パトロールに参加させていただいておりますし、オリエンテーションにおいてのトレーニングも行っております。また、艦隊の所属水兵による陸上のパトロール、これは近隣、周辺においてですが、定期的に行っております。基地憲兵隊では、近隣の飲食店と緊密に連絡の取り合いをしています。私どもの基地におきましては、ランダムではありますけれども飲酒検査を行っております。また、基地内において、掲示板等に現在ある規制の掲示を行っております。

以上、私ども米海軍横須賀基地、また在日米海軍における現状をお伝えさせていただきました。もし、ご質問がありましたならば、ここでお受けしたいと思います。

川口副委員長

ただ今、オーエン司令官よりご説明がございましたが、これに対しまして、委員の方にご意見、ご質問をいただいきたいと思。います。

まず、米海軍基地の一番近隣に位置しております本町商店会の越川委員に発言をお願いいたします。

越川委員

私は、商店会という立場から発言をさせていただきますが、まもなくクリスマスや恒例化した「よこすかカウントダウン」が実施されます。これは、米海軍と横須賀の行政とが協力して行っています。そういう中で、現在10月から外出禁止令が発令されまし

たが、これを受け、うちの商店会は、昼の商売、夜の商売も含めて、大変悪い状況になっております。できるならば、なるべく早く禁止令を外して欲しいのが実情です。

横須賀の基地は、沖縄とか佐世保、岩国とはだいぶ違う環境にあると思います。横須賀は今まで米海軍と友好関係にあって、ネイビーバーガーやチェリーチーズケーキなどを築き上げてきました。横須賀の街も過去にはいろいろな問題がありましたが、それを米海軍と地域住民、行政も含めて一つ一つ改善してきて、大変友好的な関係になっていると思います。

お願いしたいのは、沖縄と横須賀は違うと思いますので、今時、連帯責任ではないですが、同一にそういう禁止令を受けることに対しては、私どもは大変遺憾に思いますので、何とか早期の解決をお願いします。

川口副委員長

横須賀ではただ今、越川委員がご発言したような現状が続いております。私も本町の町内会長ということで、越川委員と同じ地域に生活をしておりますので、街が静かになっていくことを毎日実感しております。

この現象は全国的に基地を抱えている街にもあるのではないかと思うのですが、他都市の状況をもし事務局の方で何か情報をつかんでおりましたら、全国的な街の状況について、ご報告をお願いしたいと思います。

事務局（基地対策課長）

他都市の状況については、同じ米海軍の佐世保市において、12月5日付で飲食店の組合の方たちが、越川委員と同様の主旨で、佐世保市長に対して緩和要請を陳情したという記事を承知しています。

川口副委員長

こういう状況は、やはり同じような基地を抱える佐世保においても、広がっているということをご報告いただきました。しかしながら、越川委員の話にありました、また基地司令官の話にもありましたように、横須賀では、環境パトロール等が行われておりまして、非常に日米協力の防犯体制が確立しつつあるということでございます。この環境パトロールの委員長を務めておられます大滝町会長の上田委員から一言意見ををお願いしたいと思います。

上田委員

パトロールの件は私が話すと自分で自分が言っていることになりますので、ほかの方をお願いするとして、一つは、沖縄の事件というのは、日本国内でひどい犯罪が行われたものであり、これについては、厳しく犯罪を取り締まり、処分をきちんとしていただ

きたい。

ただその中で、この犯罪を犯した者を別にした場合の米海軍というのは、母国を離れて、母国のため、日本そして世界の平和のために異国の地で現在、活動しているわけですから、そういう方々がこの一つの事件において、すべてこの責任を負わなければならないというのは不幸かなという気がします。

そういう中で、いま何人かの方がお話しになったように、クリスマスを迎える時期に母国にも帰れず、日本だけではないと思いますけれども、いろいろな国において活動をされている方々に、ぜひ横須賀においても、地元の人たちの心も一緒に考えた中で、ぜひ外出禁止であるとか、飲酒問題につきましても、今回の事件とはまるっきり関係ない善良なアメリカの方々に対して、規制を緩和していただいて、私はそういう方々には、楽しいクリスマスを迎えていただきたい。

そういう意味からも、私ども、そして行政である横須賀市も合わせて、この問題を基地司令官にお願いし、また、米海軍全体に対しても、こういう形のをぜひお話しただければなど、このように思います。

川口副委員長

上田委員の意見にございますように、米海軍の兵士たち、軍人たちにとっても、この規制は大変問題なのではないかと思えます。

それでは、下町パトロールという側面に関して、もう一人ご意見を伺いたいと思えますけれども、富岡委員、お願いします。

富岡委員

横須賀市内の商店街、飲食店街は、夕方になりますと、閑古鳥が鳴いている状況でございます。要因の一つとしてあげられるのは、先ほど説明がありました10月19日の外出禁止令、そして11月20日の第7艦隊司令官が発令しました22時から8時までの飲酒禁止。12月7日には、自宅での飲酒は解除されたものの、引き続き22時から8時まで、外出先での飲酒は禁止されています。

こうした中、規制がある度に市内の飲食業は打撃を受けておりまして、今まで軍の家族連れが仲間同士で仲良く利用していた風景というのが、今の横須賀ではほとんど見られなくなってしまったという状況にあります。

横須賀の市民は、米軍が横須賀にある以上、住み分けをして断絶をするより、生活を共にして仲良くすることで繁栄すると考えています。また、犯罪を防ぐには、隔離するのではなく、同じ地区に住んでいる者同士、お互いに理解を深め、仲良くすることが必要だと考えて、それも良く分かっていることだと思います。

月1回実施しております米軍との夜間パトロールは、22時30分から0時まで行っておりますけれども、先月、新聞を見ますと15年で200回を超えていますという記事も

出ておりました。町内会長や役員を通じて、米海軍の方々が多い時は 50 名ほどが集まってパトロールをしています。こういったものは本当に継続の力で評価すべきものだと思います。

お互いにもっともっと理解を深めて、お互いに楽しく生活できるように努力する必要があります。できれば、横須賀だけでも早期に規制の解除をされるようお願いしたいと思います。

前回、この会議では、横須賀基地で実施されている米海軍の軍属並びに家族の人たちを対象とした市内に出るための勉強会、オリエンテーション・トレーニングに出席させていただきました。基地司令官自ら講師を務めまして、日本人の気質、習慣、横須賀の歴史から生活を長時間にわたって講義しまして、この勉強会に参加しなければ市内に出られないという勉強会です。特に、司令官は軍の方々に、「あなたたちは米海軍の大使ですよ」と、「大使として恥ずかしくないよう、みなさん自覚をもって行動するようにしましょう」というふうに指導してまして、大変良い勉強会だったと思います。

ただ、一つだけ残念なことがございました。20 歳ぐらいの女性の軍の方が司令官に「もし、日本人とトラブルになったときに誰に救いを求めたら良いですか」という質問を司令官にしました。その時はオーエン司令官ではなく、前の司令官でしたが、その回答は、「MP もしくは軍人です」というふうに答えております。私の私的な考えですが、これは大きな間違いだと思います。もしお互いを信じているならば、「日本人です」と答えて欲しかったと思います。ついでに「ヘルプミー」は「助けてください」ですよと教えても良いかなと思います。併せて、トラブルにあったら、どちらかの側につくということではなく、その場でトラブルを解消するようにあなたたちは努力しなければいけませんよというふうに言って欲しかったと思います。横須賀に着いたら、母国を愛するように横須賀を愛してほしいと伝えて欲しかったと思います。

繰り返しますけれども、隔離して犯罪を防ぐより、仲良くなって犯罪を撲滅することが横須賀の経済を活性化する上でも必要だと私は思います。勉強会では、信頼を築くには長い年月が必要ですが、ちょっとした犯罪一つで一瞬にして信頼が失われてしまうということも全員に理解させる勉強会であって欲しいと思います。

川口副委員長

環境パトロールは、月に 1 回、夜に日米協力でもって行われているパトロールですけれども、私も毎月参加しております。18 年前に始まり、この 12 月に 200 回目を迎え、大変歴史も長くなっております。これが年々先細りになっていくことは全然なく、どんどん拡がりをもってきています。日米の参加者も増えてきています。もちろん、憲兵隊の方、軍人の方に参加していただきまして、日本の方からは我々町内会と警察、横須賀市役所、県、防衛局など各方面からたくさんの参加をいただきまして、益々充実してきておまして、横須賀の安全はこのパトロールで守られていくという体制ができてきて

います。

また、米軍人の態度も5年前に前の基地司令官が教育プログラムというものを始められました。富岡委員の話にも出ておられましたが、このプログラムの教育を受けないと運転免許も取らせないという厳しいものでございます。そういうことがあり、防犯、治安維持ということに関しては、横須賀は良くなってきていると思いますけれども、米軍関係の犯罪の件数について、年々、どういう数になっているか、そういう資料を事務局ではもっていますでしょうか。

事務局（基地対策課長）

交通事故等が入っておりませんが、平成19年度が4件、20年度が2件、21年度が4件、22年度から今年度は年間3件ずつとなっています。

川口副委員長

そういう状況であります。各委員からは、越川委員が申し上げられたように街が衰退していると、すっかり変わってきてしまっているということではいけないのではないかと。

それから上田委員から、米軍人にとっても幸せな生活という面からいうと、この規制は負担が重いのではないかと。

一方、治安維持ということからは、横須賀は大変守られているというお話がございました。

このような意見が出ておりますが、ほかに意見がございましたら、受けたいと思いません。

須藤委員

冒頭にオーエン司令官がお話しされました数々の規制については、私ども新聞とかメディアからは伺っておりますので、大筋では承知しておりました。その後の各委員さんからの発言を含めて、私の感想を述べさせていただきます。

横須賀の一住民として、やはり横須賀の経済の衰退といいたいでしょうか、経済力の減退、そしてまた、先ほどいわれたように本町商店会を中心とした商業活動の減少などを考えますと一刻も早くオーエン司令官がおっしゃった規制を早めに解除して貰いたいなどという考えをもっております。

しかし一方では、このような犯罪の再犯防止あるいは予防の見地から、それから不幸にして被害にあった方々や現在の沖縄県民の思いや感情を思いますと、沖縄県にある基地と横須賀の米軍基地とは内容は必ずしも同じではないということをおっしゃいましたが、私もそう思いますが、そういうことを思いますと早く解除していただきたいけれども、被害者の立場や沖縄県民の感情や現状を思いますと、早く解除して貰いたいのだ

けれども、もう少し様子を見た方がよろしいのではという思いもあります。

横須賀に住んでおりますと、外国人、即アメリカ人というイメージ、印象と現状がございまして、たまたま横須賀にいますと、ほとんどの外国人、イコール、アメリカ人だと私は思っております。私ども日の出町という地域の年間の行事の中で、例えば盆踊りとか、数日前に行われました餅つき大会、お祭りもそうでございますけれども、数は少ないけれども、米国のアメリカ人の方々も参加しております。少しでも日米交流の一端を担えているのかなという自負がございまして。

最初に申し上げた各種の規制を解除するにあたっては、その両面を良く見ていただきまして、一つ英断を発揮していただきたい。

また、事務局をお願いしたいと思いますが、本日の会のスタートにあたりまして、会議録を録音されるならば、見れば分かるかもしれませんが、今日の会議は録音しています、場合によっては、今日はどここのカメラが来ていますということを一言、あなたは知っているかもしれないけれども、私は知らないのです、事前に説明をしていただきたいと思っております。

事務局（基地対策課長）

今回の録音につきましては、会議録作成のためであり、事前に皆さまにお知らせしなかったことにつきましては、深くお詫びを申し上げます。

今回の会議については、傍聴も可としておりますので、各報道機関が来ておりますことを重ねて報告させていただきます。大変申し訳ありませんでした。

越川委員

先日、本町商店会に三沢の基地の方から業者さんが視察に来ました。その方にお会いしたのですが、三沢もこの禁止令後、ぱったりと人が途絶えて、街が閑散としていると。そういう中で、話をしたのですが、三沢の方ではなかなか、米軍基地の関係者と話し合いをする場所がないと。こういった協議会もなく、地域住民と基地との対話がないと話を聞きました。オーエン司令官にお伺いしたいのは、沖縄を含めて、横須賀というのはいま言ったようにパトロールとか、この協議会とかいろいろ対話の機会があると思うのですが、他の基地は現状どうなっているか、知っている範囲で結構ですから教えてください。

オーエン司令官

ほかの基地司令とも連絡を取り合いますが、基地司令からは各地域において、コミュニケーションは取れているというように伺っておりました。

越川委員

沖縄もですか。

オーエン司令官

もちろん、沖縄の司令官とも話す機会がありました。沖縄の地域、商店会の今の経済状況は、横須賀よりもひどいと聞いています。

越川委員

ひどいというのは、対話がないとのことですか。

オーエン司令官

いや、いわゆる経済状況です。

越川委員

私が聞きたいのは、横須賀では、よこすかカウントダウンとかいろいろな行事を地域住民とやっていますよね。そういうことを聞きたいのですが。

オーエン司令官

各基地司令の方でも大なり小なりになりますが、地域との接点という形はもっていると思います。横須賀は非常に多く、お陰さまでやらせていただいておりますけれども、ほかの基地司令部でも、地域とのそういったイベントはやっていると信じています。

山下委員

私は、汐入駅の周辺で一番、駅に近いところの町内会長になりますが、店と住宅が密集してしまっていて、米軍の方も私の家から 50 メートルの範囲で 7 軒住んでいます。非常に紳士的で朝のゴミ出しも、挨拶を交わしたりし、多分米軍の方でそういう指導をしていると思いますが、そういう形で、住んでいる方はゴミも間違えずにやっております。

もう一つは、近くに飲み屋さんが 2 軒ばかり、住宅の中にありますが、米軍の方で毎日パトロールに来ていただき、以前に比べてだいぶ静かになりました。

先ほどからも飲酒店含めて、横須賀の経済含めて、外国人と協力しながらもう 40 年、50 年ということで、お互いに生活してきましたので、これからもできるだけ協力しながら、今の外出禁止令を少しずつ解除していただければ、逆に良い、米兵たちも緊張感をもって、これからもやっていけるのではないかと思いますので、解除プラス指導していただければ良いと思います。

私も、本町の夜の 10 時 30 分からのパトロールを約 10 年近くやっておりますけれども、米軍の方も多いときは 70 人、80 人来られるときもありまして、米軍と地域との関わりもかなり密になってきて、そういう中で良い関係にありますので、これからもパト

ルールを含めて、ご指導していただければ良いと思います。

川口副委員長

町内会でも、いろいろと努力されているということでございます。委員の皆さまの意見もだいぶお聞きして参りましたので、私サイドで、皆さまの意見をまとめさせていただきたいと思います。

沖縄での事件を受けまして、米軍の外出時間、飲酒時間の規制を実行されたのは、大変重い決定だったと思っております。沖縄の事件は大変な不幸でございましたが、それを受けての規制措置の犯罪防止効果は非常に大きいと感じます。そして、犯罪の再犯防止は街にとっても重要なテーマだと感じております。

しかしながら、委員の皆さまからありましたように、この規制が長期化しますと街に人がいない、街が寂れるという現象も見受けられます。このまま続けば、姿がすっかり変わってしまうのではないかという危惧もございます。もう、あちらこちらで、経済的な影響が出始めているという話も聞こえてきます。

また、米軍人の方にとっても、幸せな毎日を送るという面から見ますと、この規制の負担が非常に重いのではないかというご発言もありました。

そういう中で、横須賀では、治安維持という面から見ますと、皆さま各方面からご発言がございましたけれども、米軍と近隣地域が長年協力して、街の安全を守り続けております。この活動は、最近ますます拡がっておりまして、内容も充実してきております。犯罪防止という点について、日米双方の努力が切れ目なく続いているという現状がございます。

本日は、横須賀における本協議会が発信するという意味におきまして、ただ今の規制措置の早い時期での緩和、これを協議会の要望として、オーエン司令官にお願いしたいと存じております。

この要望を本協議会の要望として、オーエン司令官にお伝えすることについて、ご意見をいただきたいのですが、上田委員いかがでしょうか。

上田委員

今まさに副委員長のお話しにあったように、皆さまのご意見を聞いておりましても、横須賀の街の経済的な厳しさの中で、米軍の方々が少しでも楽しく、この横須賀の街で、言い方はどうかと思いますけれども、お金を使っていただくことも大切な一つの役割的な部分ももっていると思います。そういう意味では、この今の事情の中で、できる限り、規制緩和というものをやっていただくのと同時に、最初の話しに戻りますけれども、併せて二度とこういう事件が起きないための教育の問題につきましても、真剣に取り組んでいただいているとは思いますが、ただこれはダメ、あれがダメというやり方も併せて平行にしなければなりませんけれども、前向きな取り組みが必要だと思えます。

例えば、今のお話しで何々を規制する、あれをやっちゃダメだよ、確かにそれも必要でしょう。でも、もう一つはそうではなくて、もっとみんな地域と連携をとっていこうじゃないかというのも、これから考えていただいて、まさに横須賀がやっているような取組み、いろいろな地域の連携ですが、これは米海軍だけではできないと思います。地域が立ち上がって、一緒にやろうよという、そういう気持ちがなかったら、米軍だけに何かやっていますかといっても、相手があることですから、まず地域の方が同じ歩調、同じスタンスで考えられるような環境づくりをしていかなければいけないと思います。

そういう意味では、横須賀は恵まれていると思いますけれども、他の地域においても、状況を少しずつ理解し合って、お互いに信頼のできる地域づくりをお互いにやっていくことで、横須賀がいま行っているのと同時に皆さまの考えの中で、今回はできるだけ早く規制を解いて、お互いに良い街、楽しい街にしていけるように、ぜひやっていっていただきたいと思います。

福本委員

皆さまのご発言をお聞かせいただきまして、今回の会は、まず地域の皆さまに、今回次々と出されました米軍の処置に関しまして、きちんとご理解をいただくということがこの会の主旨でございましたが、これにつきましては、理解をしているというご発言もありましたし、個々にご質問等もありませんでした。

むしろ、この処置に対する経済的な影響というものの実態をお伺いしました。また、それだけではなく、今までの歴史的な点から、横須賀の取組みは、これまでも地域と米軍との話し合いの中で、いろいろなことを解決してきたという経験があるということもお伺いしました。

これをもって、さらに前向きな姿勢として、この状態を解決していけるというご意思、ご決意もあられるということもニュアンスとしてあったと思いました。

私としては、このようなご意見があったということ、行政の立場として、今日はオーエン司令官が直接聞いていただいておりますので、あとは防衛省と外務省になりますが、防衛の関係は横須賀防衛事務所の伊波所長が来ていらっしゃいますので、ぜひ伊波所長からも防衛の上層部の方に横須賀の状況をお伝え願いたいと思います。私からは、外務省の関係のところは、このような会があった様子を、きちんと上がった意見をお伝えしたいと思います。

川口副委員長

最後に、ただいま私が申し上げました米軍サイドの規制措置の早い時期での緩和というものをこの会の要望とするということに関し、オーエン司令官から何か発言できることがございましたら、一言お願いしたいと思います。

オーエン司令官

今日、皆さま方からいただきましたご意見等に関しましては、必ずすべて、私の上層部に伝えていきたいと思えます。

もう一点、皆さまにお伝えしたいことは、今回起きたことに関して、私ども米軍全員が軽んじていないということを改めて申し上げたいと思えます。これら事件に関しては、私どもとしても、厳しく、これからも見ていきたいと思っておりますので、その点に関しては誤解のないようにしていただければと思えます。

皆さま方のご意見には、非常に感謝を申し上げます。

川口副委員長

この会、ほとんど全員が一致と申して良いような我々の要望でございますので、規制措置の早い時期の緩和を一つよろしく願いしたいと思えます。

本日は、長時間の協議、皆さまありがとうございました。大変成果のある協議会をもてたと思っております。これをもちまして、本日の協議会を終了したいと思えます。ありがとうございました。